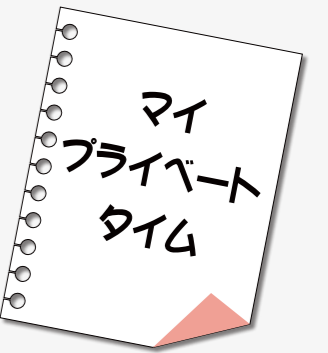


# 人情あふれる心豊かな 「笑い」と「花」と「童謡」のまち

くままつ 下松市長(山口県) 井川成正  
Shigemasa Igawa



## 「笑い・花・童謡」

私は、21世紀は心の時代ととらえ、「笑い・花・童謡」を3本の柱に掲げ「人情あふれる、心豊かなまちづくり」に取り組んでおります。

笑い―学校や地域であいさつ運動を推進し、笑顔であいさつを交わすことで、人と人の触れ合い、まちづくりの輪を広げていきます。毎年皆さんの笑顔の写真を募集し「笑顔の写真コンテスト」を開催しています。

花―市民の心を和ませます花いっぱいのもちづくりを進めています。現在、下松スポーツ公園「花の広場」では、春にはポピー、秋にはコスモスが咲き、また、市内各地にシダレザクラやカワヅザクラの植樹も行っております。特に、シダレザクラについては、「日本一のシダレザクラのまち」を目指し、現在3700本植えており、将来下松市の大きな観光財産にと考えております。市民の心の中に思いやり、優しさ、美しさの花を咲かせていきます。

童謡―童謡は、親子のきずなや、故郷への思い、自然を愛する心、日本人の優しさなどが歌われており、童謡を歌うことで、失われつつある日本人の美しい心、優しさ、思いやりの心などを大切に持ち続けていきたいと願っています。童謡のイベントとしては、毎年「星のふるまち童謡

## 畑仕事と農業への想い

「市長さん生きちよるんかね、体操の時間よ」と言う、近所の奥さんの元気な声で目を覚まし、日課のラジオ体操をして1日の始まりです。前日夜遅くなり、きつい日もありますが、私の健康を思ってお構いなしのお誘いです。

リズムに合わせて仲良く体操をしながら、その日の自分の健康状態をチェックします。

私は昭和5年に下松の山奥の農家5人兄弟の末っ子に生まれ、2才の時父が亡くなり、母が苦勞し、貧乏をしながらも明るく育ててくれました。



「あいさつ運動」に参加する筆者

フェスタ」を開催しています。

## 星ふるまち 下松

推古天皇のころ、松の木に大星がふり、7日7夜光り輝き、「百済の皇子がこの地へやって来る」というお告げがなされたという伝説が残る「星が降った松」が「降り松」となり、「下松」になったという説のある本市は瀬戸内海に面し、山口県の南東に位置し、面積89㎢、人口5万6000人のまちで、戦前より企業の進出により工業のまちとして栄えてきました。現在、新幹線、新造船のできる「ものづくりのまち」として脚光を浴びております。商業は、特別商業集積法の全国第1号承認を受け、大型店の誘致に成功以来、次々と大型店が進出、多くの集客を得て、まちも活性化し、人口も増加しております。昨年末でたく市制施行70周年を迎えました。その記念すべき年にふさわしく、東洋経済新報社発表の「住みよさランキング」では、全国で18位にランクされています。

## 身の丈に合った財政運営

私が市長就任当時、平成の大合併で、本市周辺3市2町が法定合併協議会を設置しておりました。本市は2度の財政再建団体に落ちた経験で、健全財政運営を行っており、合併協議会当時72億円の積立金を持っていました。十分な協議がなされないまま

農家に生まれたせい、畑仕事が好きで、暇さえあれば畑に出ています。土に汚れた作業着と麦わら帽子がよく似合い、畑の中から顔を出したら誰も「市長」とは思いません。

スイカ、トマト、大根、ネギ、ニンニク、玉ネギ、季節の野菜はすべて植えてあります。おいしく熟れたスイカを楽しみに畑に行くと、カラスに食べられていたり、猪が遊びに来て、畑を荒らされたこともあります。太陽と自然の風を背に受けながら一杯働き、大汗をかいたあとの疲労感がまた心地よいものです。

現在、農業は地球温暖化や、途上国を中心とした人口の増加、さらには食生活の変化などに伴い、食料の需要に生産が追いつかない状況にあり、食料の生産増大が急務になっております。本市におきましても、耕作面積や農業従事者が年々減少しており、市民の農業に対する関心も薄らいできております。そこで、農業を通して土に親しみ、植物の生育と土との関係、自然の仕組みや食料の大切さについて理解を深める食育活動や自然体験の拠点施設として農業公園の整備をする計画を策定しました。以来2年余りの中で、農地の復元を図り、耕作放棄地の雑草刈りや、土作りを行いました。

園内には、ミカンをはじめとした柑橘系の果樹を植え、玉ネギ・ニンニクなど



下松でできる新幹線

新幹線の「顔」をつくる打出し板金で製作したアルミ製フェロ

の期日決定に反対して、私は法定協議会を退席し、当時は全国でも話題になりました。現在、「自主・自立・行財政改革」を基本とした、「意識の改革」「制度の改革」「財政の改革」に職員と共に取り組んでおり、体育館建設や区画整備事業など、健全財政の基に順調に推進し、特に実質公債費比率は8%を運営基準にしています。

本年は、老朽化が進んだ公民館や図書館を、新たな機能も加えた複合施設として心豊かな人づくりとまちの活性化の源泉となる「市民交流拠点施設」の建設を進めてまいります。

の試験栽培を行っております。収穫は予想を上回る出来栄となり、一部、試験販売や、ニンニク入り「焼肉のたれ」を製造するまでになっております。

また、市内外の小学生の体験学習も実施しており、農業公園で作物を育てていくという作業体験や学習で収穫の喜びやさらには、「優しさ、思いやり」の心を育て、それが市民の心のつながりになるものと信じております。

私は、平成12年に市長に就任し、現在3期目(3期目無投票)になりました。市長として市民と協働で「日本一住みよいまちづくり」に取り組んでまいります。



農業公園にて



「焼肉のたれ」の市長イラスト